

自立支援局だより

第26号 2014. 12発行

10月17日、18日に第35回並木祭が開催されました。お天気にも恵まれ、たくさんの方に起こしいただくことができました。今号においては、並木祭への事前準備の様子や、当日の感想等についてご紹介いたします。

発達障害支援室での並木祭への取り組み

発達障害支援室では、利用者の増加に伴い、一人一人が主体的に行事に取り組むことを目標に、2つのチームに別れて「かふえとらいあんぐるV」と「成龍軒」の企画を行いました。

「カフェとらいあんぐるV」では、先輩たちから年々引き継いでいるレシピの手作りお菓子に加えて、それぞれの得意分野や好きなことを活かして、天然酵母のパン、ハンドドリップ珈琲、自家栽培のさつまいもを使用したおまんじゅうなど彩り豊かなメニューを提供しました。

「成龍軒」では何度も試作を繰り返し、誰もがうなずく「ルーロー飯」が仕上がりました。また、今年初めてのグルメストリートでの出店に、戸惑いながら、情報収集から道具の準備、接客の練習など綿密に企画運営を行いました。

当日は多くの社会人となった終了生が応援に駆けつけ、終了生と現利用者が一丸となって、スムーズに営業を行うことができました。途中、アクシデントに見舞われたこともありましたが、色々な人の協力を得ながら、それぞれが最後まで投げ出さずに自分の役割を果たし、たくさんのお客様に喜んでいただくことができました。職員は極力見守り、一人ひとりが主体的に考え、取り組むことで、自分の障害特性やお互いへの理解や思いやりが生まれ、それぞれが社会人を目指す上で大切な、人と人の間で生きることへの体験的理解が深まったことと思います。

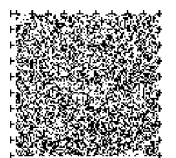
発達障害支援室 小林 菜摘



朝早くから応援に駆けつけてくれた終了生たち



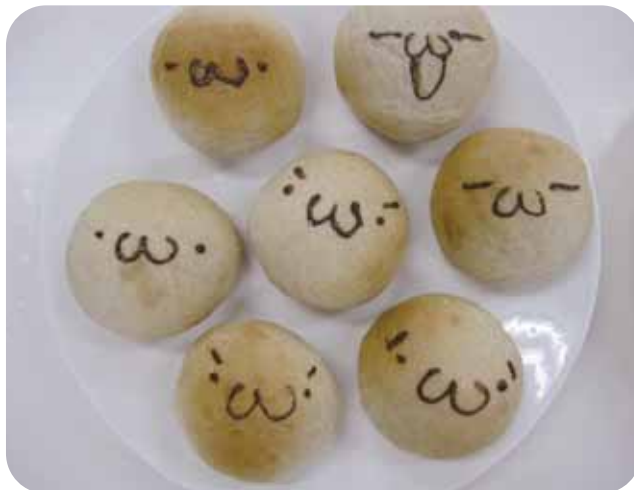
手塩にかけて育てたさつまいもの収穫



並木祭を終えて

山口 哲也さん（発達障害支援室利用者）

私は並木祭で、天然酵母のパンを作りました。酵母パンの酵母は酒粕から起こして、約2週間かかりました。チョコの味を足したかったことと、見た目が良くなると考えて、パンにチョコペンで顔を描いた商品にしました。一番大変だったことは、約50個分あるパン生地を捏ね上げることでした。また、一番嬉しかったことは、50個あったパンが全部売れたことです。最後に並木祭を通して、自分もがんばればできるということ学びました。



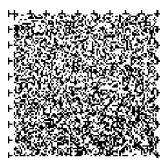
並木祭で販売した手作り天然酵母パン

今年も楽しんだリハ並木祭（総合支援課）

就労移行支援では、今年も利用者の方が日頃の訓練成果の発表や模擬店、イベントの開催等、準備から当日の発表まで大いに活躍されました。講堂では、開会式、国リハコレクション（ファッションショー）や東京サロンオーケストラの演奏等があり、就労移行支援の利用者の方も出演されました。貴重な体験をされた3名の方に、感想をいただきましたのでご紹介いたします。

☆開会式司会 相磯 舟さん（就労移行支援〈養成施設〉）

これまで司会の経験があり、また軽音楽部に所属していて、人前に出ることは慣れていたつもりでした。でも、開会式のようなしっかりした場でやるのは初めてで、思った以上に緊張して、コメントを噛んだり、名前を間違えてしまいました。名前を間違えてしまった方、本当にごめんなさい（笑）。司会はとてもやりがいがありました。緊張しながらも何とか務めることができて良かったと思います。



☆国リハコレクションモデル出演 **佐藤 博輝**さん（就労移行支援）

障害によって、以前着ていた服が着られず、おしゃれに対して目を背けてきました。今回のコレクションを通して、同じような障害のある皆さんにも服のリフォームによって着たい服を着る喜びを知ってもらいたいと思いました。打ち合わせやフィッティングなどで、何度もお世話になった皆様方に感謝しています。ありがとうございました。



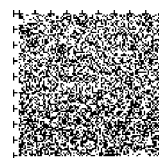
☆東京サロンオーケストラ指揮者体験 **日向野 智裕**さん（就労移行支援）

初めての指揮で不安と緊張でいっぱいでした。リハーサルをやればなんとかなるだろうと思いましたが、合わせる事が全然できず、緊張感はさらに増しました。ですが、うまくできなくてもいい、皆さんに楽しんでもらえるようにしようと開き直って、ユニークなことをやってみました。意外と合わせることができだし、笑い声も結構聞こえてきて、皆さんが楽しんでいただけたようなので、気分良くできました。



皆さん、緊張しつつも、楽しんで取り組んでいたようですね。お疲れ様でした！

多くの方々のご協力をいただき、今年のリハ並木祭を盛会のうちに無事終了することができました。厚く御礼申し上げます。来年もたくさんの方々にご来場いただき、利用者の皆さんともども楽しめるリハ並木祭にしたいと思います。



自立訓練部の並木祭

私たち自立訓練部は、訓練紹介と模擬店で手作りのお菓子やスープを販売しました。訓練紹介については、機能訓練（視覚障害、頸随損傷）、生活訓練（高次脳機能障害）、それぞれの部門で、話し合いや準備の作業を進め、日頃の訓練を紹介したパネルの展示、訓練で使用している道具の紹介、訓練で制作したものの紹介、車いす体験の企画を行いました。

模擬店については、昨年度好評だったパウンドケーキとスコーンの販売に加え、メニューの内容を追加し、クッキーとミネストローネを販売しました。材料や販売価格、販売個数、ラッピング方法等、利用者と職員が何度も話し合いを重ね、協力しながら準備を行いました。販売当日も、利用者が中心となり販売し、全てのメニューが販売開始から2時間半で完売しました。

並木祭での訓練紹介と模擬店出店は、日々の訓練では味わえない体験を積むことができました。



各部門の訓練紹介コーナー

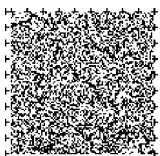
並木祭に参加して — 利用者さんの声 —

機能訓練 生島 唯斗さん ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

私は、実行委員会、軽音楽部、生け花の展示、自立訓練の紹介を行いました。

その中で、1番印象に残ったのは、軽音楽部の演奏です。先輩方の演奏は、とても迫力がありました。

自立訓練（機能訓練）では、視覚障害の方への日常訓練、歩行訓練、IT訓練の紹介をしました。日常訓練では、お金を分ける方法や、日頃工夫している事などを紹介しました。また、IT訓練では、音声ソフトを使ったキーボード操作の体験をしてもらいました。歩行訓練では、パワーポイントを使って白杖や、実際に歩いている様子を紹介しました。



開会宣言の出番を待つ生島さん

当日は、利用者や職員の方が協力し合ったことで無事に訓練紹介を行うことができました。

35回続いているこの行事は、地域の方や職員の方々、利用者の協力できていると感じました。もっと利用者の方が積極的に関わり今後の並木祭を盛り上げていきたいと思いました。

機能訓練

中村

眸さん



モデル役の中村さん

私は今回の並木祭で機能訓練（肢体）の訓練紹介（パネル紹介、車いす体験）のスタッフとして携わりました。普段、頸随損傷の人と触れあうことのない方にもパネルや実物の自助具を見て、触れていただいて、理解を深めていただけたのではないかと感じています。

特に車いす体験では実際にグローブをはめていただいて、自走を体感してもらいました。頸随損傷の多くの方は指が使えない状態なので、手のひらでこぐのですが、その大変さなどを来場した方々に感じていただけたと思います。私はファッションショーと並行して、準備を進めてきましたが、当日は滞りなく並木祭を盛り上げることができたと思います。

みんなで協力して並木祭という大きな目標に向かって頑張ることができ、この思い出は退所しても忘れることができません。このような機会を与えてくださり本当にありがとうございました。



生活訓練

石田 正明さん

全体を通して、準備をするところから当日の販売まで、時間を考慮して進められました。

10月17日（金）の午後は並木祭開会式の司会をしました。司会は職員の方ともう一人の利用者の方と一緒に進めました。

並木祭当日の10月18日（土）は天候にも恵まれ、晴天でした。

クッキー・パウンドケーキを作って、販売する所まで、流れの説明を受けて、当日は販売に忙しかったですが、充実した時間を過ごすことが出来ました。よくできたと思います。

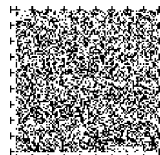
クッキーとパウンドケーキの味はクッキーが、「チョコチップ、クランベリー、抹茶&ピーナッツ、グラノーラ、ココア&ピーナッツ」パウンドケーキが、「チョコチップ&バナナ、ほうれん草&バナナ、ゆず&ジンジャー、ゴーヤ&バナナ」でした。

販売計画を立てられた事が、売上達成に繋がったと思います。どのように販売すれば売上達成が見込め、どれくらい作れば計画通りの売上に達するのか、事前に見積りを行い、知る事が出来てよかったと思います。

今回、リハ並木祭に参加出来て良かったです。



向かって左が石田さん



臨床医学総論

理療教育・就労支援部 理療教育課

理療教育の専門、高等課程の2学年に週3時間配当される「臨床医学総論」は、その言葉どおり臨床医学全体をまとめた科目です。

この科目は臨床医学の現場において、患者さんをどのように診察するか、実際の診察法を学んでいます。かつては「診察概論」という名称でした。

もちろん、医師になるわけではないのですが、あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師といえども現代医学の知識は、医療従事者として必要です。

初めに、医療従事者としての心構えや患者さんへの接し方などを、医療面接（問診）でしっかりと学びます。視診、打診、聴診、触診、測定（身体計測など）、バイタルサイン、神経系の検査、運動機能検査を学習します。

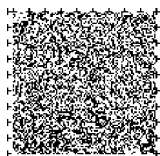
次に、臨床検査法を学習します。ここでは、一般検査や生化学検査（尿・便・血液検査など）を学びます。例えば、健康診断の結果にある血

糖値やコレステロール値、肝機能検査などです。

さらに、レントゲン検査やMRI検査など画像診断の概要についても学びます。それから、血圧の測り方、反射検査、関節の可動域の検査など実技も授業の中に取り入れています。また、私たちは、レントゲン検査などは出来ませんから、徒手による検査法を学び、肩こりとか腰痛を起こしている原因についておおよその目安がつけられる技術も学びます。そして、薬物療法、食事療法、理学療法などの治療法を学びます。この科目の最後には、臨床心理もあり、患者の心理、カウンセリング、心理療法も学びます。

現代医学の知識が十分に備わっているということは、患者さんにとっても心強いこととなるでしょう。

このようにあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師も現代医学についてもしっかりと学習しているのです。（文責：小泉 貴）





修了生のご紹介



当センターには、様々な分野でご活躍をされている修了生の方がいらっしゃいます。今号も2名の修了生の方にインタビューを実施いたしました。

石田 武さん

(就労移行支援(養成施設) 2014年3月修了 視覚障害)
在宅訪問マッサージあいにて行田店 2014年5月より勤務

① 現在の業務内容

身体の治療及びコミュニケーションを大切にして、心にたまったストレスの緩和を第一次的目標にした在宅訪問マッサージの仕事をしています。2～3か月おきに、医師やご家族の方への報告書も書いています。

② 仕事をする時に大事と思うこと

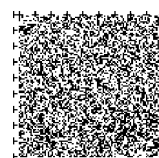
利用者さんやそのご家族の方、同意書を書いてくれた医師との信頼関係(ラポール)とインフォームドコンセント(説明と同意)が大切だと考えます。また、信頼関係を築くためにも白衣等の身だしなみには気を遣っています。

③ 訓練で役に立ったこと

臨床実習が仕事をする上での基礎になっているように思います。なぜなら、問診から始まって、徒手検査、施術そしてカルテを書くことで、自分で考え自分で施術して今後の治療方針を決めるという一連の行動ができるようになるからです。

④ 訓練中の皆さんへのアドバイス

臨床実習(授業だけではなく課外臨床も)には休まずに出席することをお勧めします。それは、今後仕事をする上での基礎になるだけではなく、臨床で覚えた内容は忘れにくいからです。また臨床実習は、解剖学・病理・東洋系などすべての複合なので、自分が思う以上に国家試験にも役に立ちます。



① 現在の業務内容

開店前の清掃、ゴミ出し、商品出しの準備

② 仕事をする時に大事と思うこと

わかりやすく、簡潔に、自分の状況を説明することが大切だと思っています。また、どんな時でも誰に対しても、笑顔で挨拶をすることも大切だと思います。

③ 訓練で役に立ったこと

仕分け作業です。何種類もの小さな備品を大量に落としてしまった際、一人で、一つも残さずに拾い、種類ごとに分け、元に戻すことができました。第5就労支援室、第4就労支援室での仕分け訓練（伝票チェック）のおかげだと思います。

④ 訓練中の皆さんへのアドバイス

日頃の訓練で、たくさん失敗し、多くのことを覚え、いろいろな場面で活かしてください



仕事は一人で取り組むものではなく、様々な方々のつながりによって取り組むものだと思います。笑顔のある挨拶、身だしなみ、これらのことがごく当たり前のようできてこそ信頼関係を築くことができるでしょう。日々、身の回りの小さなことの積み重ねを大切にしていきたいものですね。

利用者募集のご案内

自立訓練（機能訓練）視覚障害

自立訓練（機能訓練）頸髄損傷

就労移行支援

自立訓練（生活訓練）高次脳機能障害

就労移行支援（養成施設）

<問い合わせ先> 国立障害者リハビリテーションセンター 自立支援局 総合相談課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1

TEL：04-2995-3100（代表）

FAX：04-2995-4525（直通）

E-mail：soudan@rehab.go.jp

